

近畿中国森林管理局

広島北部森林管理署 ひろほく通信

中山間地域の生物多様性の保全活動

広島北部森林管理署では、国有林が所在する中山間地域における生物多様性の保全活動を、国土交通省中国整備局三次河川国道事務所と連携して取り組みました。当署管内にある三次河川国道事務所が管理する灰塚ダム周辺には、2005、2006年に3回コウノリが飛来してきました。そこで、広島北部森林管理署と三次河川国道事務所では、コウノリの再飛来を期待して、11月15日地域住民らと協力して、コウノリのための巣づくりを行いました。140×140×75cmの木枠の中に、巢材となる広葉樹の枯れ枝約150本を巢形に組んでいきました。巢材の広葉樹の枝は、広島北部森林管理署から提供しました。今回作った巢は、12月に灰塚ダム内にある人工巢塔に設置され、その後、この巢にコウノリが飛来し子育てすることを願っています。



巣づくりに参加した様子



協力して巣を作りました



国有林から提供した巢材



完成したコウノリの巢

広島県立吉田高校探求科で森林環境教育

広島北部森林管理署では、11月24日広島県立吉田高校探求科の生徒50名を対象に、「森林の現在を認識し、今(から)できることを考える」をテーマに森林環境教育を行いました。この取組は、昨年度広島北部森林管理署が行った安芸高田市の林務担当者の技術向上のための講座を機に、同市から吉田高校へ要請して実現したものです。森林環境教育では、日本の森林面積、蓄積、人工林の年齢分布や森林の持つ多面的機能、木材需要量から見た国産材自給率など、多岐にわたって講義を行いました。講義で生徒たちは、私たちの生活や経済活動に深く関係している森林に気づき、森林に関心を持つことから始め、そして、私たちの生活の中で木材を様々な場面で使っていくことが、森林資源の循環利用と林業の成長産業化、中山間地域の振興に繋がることを学びました。



真剣に講義を聞く生徒



丁寧に説明する署長



森林環境教育の様子



森林環境教育の様子

親子巣箱づくり支援しました

我が国の木材需要量は、約8,200万m³/年(H30)で、国産材自給率は36.6%です。森林・林業基本計画(H28.5)では、令和7年の木材総需要量を7,900万m³と見直し、国産材の供給量4,000万m³を目指すとしており、これにより国産材自給率が50%になるものと見込まれています。自給率50%を達成するためには、将来の消費者となる次世代を担う子供たちに、森林の重要性はもとより、生活の中での木材利用の重要性について、継続した意識の醸成を図っていくことが大切です。

広島北部森林管理署では、11月15日、国土交通省中国整備局三次河川国道事務所と共催で、親子による巣箱づくりを行いました。日頃木材に親しむ機会の少ない子供にとって、楽しい1日となりました。広島北部森林管理署では、今後もこのような取組を展開していきます



移動をする署長



設計図とにらめっこ中



慣れない手つきで鋸を使う子供



親子共同で組み立て中



近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
 TEL:0824-62-2155/FAX:0824-62-2156
 〒728-0012 広島県三次市十日市中2-5-19

